

第7次本別町総合計画
前期基本計画 事業実施状況
(令和5年度実績)

本別町企画財政課

目 次

基本目標Ⅰ

安定した産業から、わくわく笑顔をつくり出すまち

施策1 農林業の振興	1
施策2 商工業の振興	2
施策3 観光の振興	3

基本目標Ⅱ

人と人のつながりで、いきいき笑顔で暮らすまち

施策4 子育て支援の充実	4
施策5 健康づくりの推進	5
施策6 地域福祉の推進	6
施策7 高齢者福祉の充実	7
施策8 障がい者福祉の充実	8
施策9 医療体制の充実	9

基本目標Ⅲ

豊かな心と、きらきら笑顔を育むまち

施策10 学校教育の充実	10
施策11 社会教育活動の推進	11
施策12 スポーツ活動の推進	12

基本目標Ⅳ

安全と安心を確保してにこにこ笑顔で暮らすまち

施策13 防災対策の推進	13
施策14 消防・救急体制の充実	14
施策15 防犯・交通安全対策の推進	15
施策16 環境衛生・循環型社会の推進	16
施策17 有効な土地利用の推進	17
施策18 上下水道環境の充実	18
施策19 道路整備・交通網の充実	19
施策20 住宅環境の充実	21

基本目標Ⅴ

みんなの笑顔を未来につなぐまち

施策21 自治体経営の推進	22
施策22 開かれた町政の推進	23

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

- 基本目標 1 安定した産業から、わくわく笑顔をつくり出すまち
 施策 1 農林業の振興

評価指標

指標名	年度	基準指標 基準年(度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			2021	2022	2023	2024	2025
土地改良整備面積		1,079 ha (計画値)	100ha	180ha	230ha	230ha	210ha
		計画面積 (実績値)	104ha	133ha	130ha		
地籍調査進捗率		280.76km ² (計画値)			1.74%		3.80%
		計画面積 (実績値)			2.62%		
森林経営計画対象森林面積 (人工林)		3,666ha (計画値)	3,666ha	3,666ha	3,666ha	3,666ha	3,666ha
		令和元年度 (実績値)	4,388ha	3,844ha	3,911ha		

○総括

①当該年度の概況

○土地改良整備面積

道営農業農村整備事業により事業を継続実施中であり、本別2地区では86.2ha、本別3地区では43.62haを整備した。

○地籍調査進捗率

土地の境界・面積・地目等を明確にし、土地に関する諸課題解決のため新規事業として、令和5年度に足寄町境界の上仙美里地域から着手した。

○森林経営計画対象森林面積

森林経営計画に基づいた植栽（126.78ha）や下刈り（282.90ha）については、高い補助率のため（68%）、施業面積の拡大につながった。

②令和6年度以降の展望

○土地改良整備面積

道営農業農村整備事業により、引き続き北海道と連携を図りながら、事業要望を継続し整備を進めていく。また、令和7年度から町道西仙美里中央幹線道路（通称ミルクロード）の舗装整備工事を着手する。

○地籍調査進捗率

長期にわたる事業であることから、事業期間を短縮する手法の検討、また計画的な事業推進、安定的な予算確保が必要である。

○森林経営計画対象森林面積

森林経営計画に基づいた植栽や下刈りなどの事業を実施し、持続可能な森林経営の推進を図る。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

- 基本目標 1 安定した産業から、わくわく笑顔をつくり出すまち
 施策 2 商工業の振興

評価指標

指標名	年度	基準指標 基準年(度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			2021	2022	2023	2024	2025
起業家支援事業件数		0件 (計画値)	3件	3件	3件	3件	3件
	令和元年度	(実績値)	1件	2件	2件		
特産品販売額		13,696千円 (計画値)	10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円
	令和元年度	(実績値)	12,267千円	10,326千円	7,983千円		

○総括

①当該年度の概況

○起業家支援事業件数

起業家支援については、2件に支援を行った。1件目は元地域おこし協力隊で市街地中心部にカフェ店を開業、また、2件目は町外から本別町に移住し、リフォーム業を開業された方で、地域に根付き安定的な経営に務めていただけるよう期待している。

○特産品販売額

特産品販売では、道の駅や観光物産センター、また、さっぽろオータムフェスト等での物産販売を行っている他、セレクトショップでの取扱いもあったが、大口の取引先の停止などもあり販売実績は減少している。

②令和6年度以降の展望

○起業家支援事業件数

起業家支援については、町商工会と連携し町外者をターゲットに空き店舗活用、後継者対策も視野に事業を展開する。

○特産品販売額

特産品販売においては、ふるさと納税返礼品を活用し販売額増を目指すとともに、商談会での販路拡大、物産販売等での情報発信を行う。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

- 基本目標 1 安定した産業から、わくわく笑顔をつくり出すまち
 施策 3 観光の振興

評価指標

年度 指標名	基準指標		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	基準年(度)		2021	2022	2023	2024	2025
義経の里本別公園年間利用人数（未来創造課調）	134,715人	(計画値)	140,000人	143,000人	146,000人	147,000人	147,500人
	令和元年度	(実績値)	103,948人	112,222人	129,547人		
道の駅ステラ★ほんべつ年間利用者数（未来創造課調）	364,920人	(計画値)	345,000人	346,000人	347,000人	348,000人	349,000人
	令和元年度	(実績値)	286,796人	326,677人	334,283人		
祭りなどのイベントが多く活気があると思う町民の割合 (総合計画アンケート調査)	69.5%	(計画値)			75.0%		75.0%
	令和元年	(実績値)			未実施		

○総括

①当該年度の概況

道の駅については、コロナ禍前までは達していないが入込数について回復基調であり、販売収入も前年度より増額している。また、本別公園の入込数についても回復しており、本別公園やキャンプ村、ビーフハウスの利用が増えている。

イベントでは、4年ぶりのつつじ祭り（4月下旬）を皮切りに、各種イベント等が開催された。町最大の祭りのきらめきタウンフェスティバルでは過去2番目の来場者となる4万6千人が来られ、盛況に開催された。

「祭りなどのイベントが多く活気があると思う町民の割合」のアンケートについては、令和5年度に行っていない。

②令和6年度以降の展望

両施設とも本町の観光拠点であることから、道の駅を核とした三町連携事業を展開し、売上向上等のための取り組みを行う。

また、本別公園においてはキャンプ場利用者の利便性向上を図るためゴミの有料回収、シャワーハウスの設置を行っているほか、有料のオートキャンプ場整備を進め交流人口拡大を目指す。

「祭りなどのイベントが多く活気があると思う町民の割合」のアンケートについては、令和6年度中、後期計画策定時に実施予定。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 II 人と人のつながりで、いきいき笑顔で暮らすまち
 施策 4 子育て支援の充実

評価指標

指標名	年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	基準指標	基準年(度)	2021	2022	2023	2024	2025
就学前教育・保育利用率 (3歳～5歳)	100%	(計画値)	100%	100%	100%	100%	100%
	令和2年度	(実績値)	100%	100%	100%		
保育所等利用待機児童数	0人	(計画値)	0人	0人	0人	0人	0人
	令和元年度	(実績値)	0人	0人	0人		
妊産婦訪問、相談実施率	100%	(計画値)	100%	100%	100%	100%	100%
	令和元年度	(実績値)	100%(39人)	100%(29人)	100%(25人)		
新生児訪問、相談実施率	100%	(計画値)	100%	100%	100%	100%	100%
	令和元年度	(実績値)	100%(40人)	100%(29人)	100%(25人)		

○総括

①当該年度の概況

○3歳以上のこども園と保育所の利用希望者は全員受け入れることが出来ている。
 ○産婦・新生児訪問は全件実施できている。定期的な訪問が必要な産婦、未熟児はいなかった。
 ○訪問の際、育児相談日、子育て支援センターの周知を行っているため、訪問後足を運ぶ人が多く、各種母子事業で母子の様子を見ることができている。

②令和6年度以降の展望

○保育所等利用待機児童数ゼロを維持するため、必要な職員の人数を確保し安心して子どもを預けることができる環境を整えます。
 ○引き続き全ての新生児・妊産婦訪問を行い、発達の確認や育児相談などの子育て支援を充実させる。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 II 人と人のつながりで、いきいき笑顔で暮らすまち
 施策 5 健康づくりの推進

評価指標

指標名	年度	基準指標 基準年(度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
			2021	2022	2023	2024	2025	
特定健診受診率		48.7%	(計画値)	50.0%	55.0%	60.0%	45%	50%
	令和元年度		(実績値)	47.6%	43.7%	44.8%		
特定保健指導実施率		49.4%	(計画値)	50.0%	55.0%	60.0%	50%	50%
	令和元年度		(実績値)	46.2%	46.4%	60.0%		
メタボリックシンドローム該当者 (40～74歳国民健康保険被保険者 のうち受診者に占める割合)		26.5%	(計画値)	25%以下	25%以下	25%以下	25%以下	25%以下
	令和元年度		(実績値)	27.6%	31.6%	30.90%		

○総括

①当該年度の概況

2年連続リピート受診率、長期未受診者の新規受診率が伸び悩んでいる。
 メタボリックシンドローム該当者割合は全国・全道・同規模市町村と比較しても高く、本町における課題となっている。

②令和6年度以降の展望

継続受診を効果的・効率的に促し健診の定着化を図る取り組みが求められる。未受診者の属性を踏まえた最適な受診勧奨アプローチが必要である。
 また、特定保健指導対象者への保健指導を実施し、生活習慣改善に取り組めるようサポートを行い、生活習慣病予防を図る。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 II 人と人のつながりで、いきいき笑顔で暮らすまち
 施策 6 地域福祉の推進

評価指標

指標名	年度	基準指標 基準年(度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			2021	2022	2023	2024	2025
本別の人が優しく協力的であると思う人の割合 (総合計画アンケート調査)	令和元年	70.3% (計画値)	/	/	75.0%	/	75.0%
	令和元年	(実績値)			未実施		
ボランティア活動に参加したことのある人(高齢者)の割合 (日常生活圏域ニーズ調査)	令和2年	29.5% (計画値)	/	32.9%	34.0%	/	/
	令和2年	(実績値)		未実施			
在宅福祉ネットワーク組織数	令和2年	31組織 (計画値)	31組織	31組織	31組織	31組織	31組織
	令和2年	(実績値)	31組織	31組織	31組織		

○総括

①当該年度の概況

日常生活圏域ニーズ調査は概ね3年に一度実施している調査であることから、令和5年度の実績は把握できていない。
 年代や障がいの有無を問わず、社会とのかかわりを持ちにくい方への支援として、重層的支援体制整備事業(準備事業)に着手している。
 「本別の人が優しく協力的であると思う人の割合」のアンケートについては、令和5年度に行っていない。

②令和6年度以降の展望

新型コロナウイルス感染症が5類に移行された以後、自治会等を中心とするボランティア活動や在宅福祉ネットワーク活動が再開されてきているものの、活動や参加者数などは感染症流行前の状況まで戻っておらず、今後の活動内容、取組み方などが課題になっている。
 多様な状態の方が参加できる居場所作りや担い手の確保も課題である。
 「本別の人が優しく協力的であると思う人の割合」のアンケートについては、令和6年度中、後期計画策定時に実施予定。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 II 人と人のつながりで、いきいき笑顔で暮らすまち
 施策 7 高齢者福祉の充実

評価指標

指標名	年度	基準指標 基準年(度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			2021	2022	2023	2024	2025
暮らしやすいまちだと思 う高齢者の割合		44.3% (計画値)	/	/	48.0%	/	/
	令和2年度	(実績値)			41.3%		
週1回以上地域での活動に 参加している高齢者の割合 (日常生活圏域ニーズ調査)		27.9% (計画値)	/	/	34.0%	/	/
	令和2年度	(実績値)			40.1%		
高齢者の要介護認定者率		18.0% (計画値)	18.4%	19.3%	19.6%	19.6%	20.4%
	令和元年度末	(実績値)	16.8%	17.0%	16.6%		

※令和6・7年度の要介護認定者率計画値は第8期銀河福祉タウン計画における推計値

○総括

①当該年度の概況

日常生活圏域ニーズ調査は概ね3年に一度実施している調査であることから、令和5年度の実績は把握できていない。

要介護認定者率については人口減少（認定者の死亡・転出）による認定者総数の減少、並びに65歳以上で就労している人が増加していることから、認定率が推計値よりも減少している。

②令和6年度以降の展望

高齢化率は今後も上昇していくことから、地域での活動が、自身の生きがいと思えたりやりがいを感じられるような仕組みや施策を、分野等を超えて検討・構築していく必要がある。

高齢化率の上昇に伴い、介護予防は今後ますます重要になることから、高齢者就労や地域活動など多様な参加と活動の仕組みを分野を超えて検討・構築していく必要がある。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 II 人と人のつながりで、いきいき笑顔で暮らすまち
 施策 8 障がい者福祉の充実

評価指標

年度 指標名	基準指標		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	基準年(度)		2021	2022	2023	2024	2025
暮らしやすいまちだと思う障がい者の割合	21.1%	(計画値)	/	/	24.0%	/	/
	令和2年度	(実績値)			17.1%		
障がいがある人と交流した経験のある町民の割合	49.0%	(計画値)	/	/	60.0%	/	/
	令和2年度	(実績値)			52.7%		
高等養護学校卒業生が町内に戻り就業する割合	60.0%	(計画値)	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%
	令和元年度	(実績値)	—	100.0%	50.0%		

○総括

①当該年度の概況

障がい者実態調査は概ね3年に一度実施している調査であることから、令和5年度の実績は把握できていない。
 令和5年度の高等養護学校卒業生2名は、1名が町内に在住し町内で就労、もう1名は町内に在住し町外で就労している。

②令和6年度以降の展望

暮らしやすいまちづくりに向けた障がい者交流と理解の促進を図っていく。高等養護学校卒業者の就労では本人・保護者、高等養護学校等とも協議しながら希望に添った支援を行っていく。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 Ⅱ 人と人のつながりで、いきいき笑顔で暮らすまち
 施策 9 医療体制の維持

評価指標

指標名	年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	基準指標 基準年(度)		2021	2022	2023	2024	2025
病床数	60床	(計画値)	60床	60床	60床	60床	60床
	令和元年度	(実績値)	60床	60床	60床		
医師数 (民間診療所含む)	6人	(計画値)	6人	6人	6人	6人	6人
	令和元年度	(実績値)	4人	4人	4人		

○総括

①当該年度の概況

町国保病院においては、令和5年度は内科医2名、外科医1名の常勤医3名体制でスタート。病床数は60床を確保しており、病床使用率は令和5年度は65.3%と対前年5.9%の増となっているが、地域包括ケア病床においては前年度より減少している。

常勤医が診察する内科・外科診療科以外では、他病院との業務提携により小児科、精神科、眼科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、循環器内科を開設し、良質な医療提供体制を確保してきている。

②令和6年度以降の展望

令和5年度に持続可能な医療提供体制を確保するために病院経営強化プランを策定した。人口減少が進み、患者数も減少している状況において、必要な医療提供体制を確保するためにも、常勤医含め、医療スタッフの確保を継続的に進めることが必要で、現体制においての増収対策を基本に収益確保策を検討していく。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 III 豊かな心と、きらきら笑顔を育むまち
 施策 10 学校教育の充実

評価指標

年度 指標名	基準指標		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	基準年(度)		2021	2022	2023	2024	2025
子どもが元気にいきいきと過ごせていると思う町民割合 (総合計画アンケート調査)	78.6%	(計画値)	/	/	79.0%	/	80.0%
	令和元年	(実績値)			未実施		
本別町が好きと回答した中学生の割合 (総合計画アンケート調査)	90.5%	(計画値)	/	/	90.5%	/	90.5%
	令和元年	(実績値)			未実施		
本別町が好きと回答した高校生の割合 (総合計画アンケート調査)	82.0%	(計画値)	/	/	85.0%	/	90.0%
	令和元年	(実績値)			未実施		
児童・生徒数に対するパソコン・タブレットの導入割合	100%	(計画値)	100%	100%	100%	100%	100%
	令和2年	(実績値)	100%	100%	100%		

○総括

①当該年度の概況

児童・生徒用タブレット配付済（町内全小中学校）
 「子どもが元気にいきいきと過ごせていると思う町民割合」「本別町が好きと回答した中学生の割合」
 「本別町が好きと回答した高校生の割合」のアンケートについては、令和5年度に行っていない。

②令和6年度以降の展望

町内全小中学校の児童生徒にタブレットが行き渡るよう定期的に更新予定。
 令和7年度に児童・生徒用タブレット更新見込み。
 「子どもが元気にいきいきと過ごせていると思う町民割合」「本別町が好きと回答した中学生の割合」
 「本別町が好きと回答した高校生の割合」のアンケートについては、令和6年度中、後期計画策定時に実施予定。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 Ⅲ 豊かな心と、きらきら笑顔を育むまち
 施策 11 社会教育活動の推進

評価指標

指標名	年度	基準指標 基準年(度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			2021	2022	2023	2024	2025
町民の行政参加が進んでいる と思う住民の割合 (総合計画アンケート調査)	令和元年	44.0% (計画値)	/	/	45.0%	/	50.0%
	令和元年度	(実績値)			未実施		
公民館の利用者数 (本館1、地区館3)	令和元年度	23,654人 (計画値)	24,900人	24,500人	24,100人	23,700人	23,300人
	令和元年度	(実績値)	15,480人	16,868人	20,067人		

○総括

①当該年度の概況

新型コロナウイルス感染症の影響で令和4年度までは利用が自粛や一部制限されていたが、令和5年度は5類感染症に移行しコロナ禍前に戻りつつある。

令和3年度：中央公民館：7,691人 勇足：3,520人 仙美里：3,002人 美里別：1,267人
 令和4年度：中央公民館：9,591人 勇足：3,158人 仙美里：2,646人 美里別：1,473人
 令和5年度：中央公民館：11,782人 勇足：3,457人 仙美里：3,004人 美里別：1,824人
 ※勇足・仙美里の利用者数は、学童保育所へ通所する児童数の影響を受けている。

②令和6年度以降の展望

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、利用者数はコロナ禍前に戻りつつあるが、文化団体会員の高齢化が進み会員数が減少していることや、本町の人口減少に伴い利用数は減少すると予想される。

※勇足・仙美里の利用者数は、学童保育所へ通所する児童数を積算し、利用者数としている。
 次期計画策定時には、学童保育所へ通所する児童数の取扱いについて協議する。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 III 豊かな心と、きらきら笑顔を育むまち

施策 12 スポーツ活動の推進

評価指標

指標名	年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	基準指標	基準年(度)	2021	2022	2023	2024	2025
屋内体育施設利用者数 (町体育館・体力増進センター・ふれあい多目的アリーナ・柔剣道場・町民水泳プール)	延41,070人	(計画値)	延44,800人	延44,700人	延43,700人	延42,600人	延42,000人
	令和元年度	(実績値)	延32,991人	延43,849人	延42,800人		
体育協会団体加入者数	延747人	(計画値)	延720人	延710人	延700人	延690人	延680人
	令和元年度	(実績値)	延691人	延607人	延561人		
スポーツ少年団本部団員数	延205人	(計画値)	延180人	延180人	延170人	延170人	延160人
	令和元年度	(実績値)	延137人	延140人	延114人		

○総括

①当該年度の概況

○屋内体育施設利用者数

人口減少により、前年より利用者数は減少していると感じてはいるが、町外の利用も含め、1人当たりの年間利用回数（年間利用者数/人口（平均値9月末人口））は伸びてはおり、町内における子どもから大人までの居場所としても運動・スポーツに取り組む形態があると感じる。

○体協団員数・少年団員数

人口減少による団員数の減少は続いている他、少年団本部加盟においては少年団大会への出場が無く（大会が消滅したなど）、登録による経費も増加している事も踏まえ、本部登録を必要としない団体が脱会し、団員数も減少。（少年団本部登録団体 R4年度 9団体 → R5年度 8団体）

②令和6年度以降の展望

○屋内体育施設利用者数

人口減少による、利用者数の減少は今後も続くと考える。

利用者を増やす方策、また、人口規模にあった施設運営を委託も含め今後も検討しなければならない。

○体協団員数・少年団員数

少年団においては、少年団本部加盟団体と非加盟団体とが混在していることから、将来的には、統一した組織体制を検討します。

また、現在、「総合型地域文化・スポーツクラブ」の創設について協議中であり、少年団活動と「総合型地域文化・スポーツクラブ」の関係について、子ども達の健康な成長を第一義とし、子どもたちの活動が可能となる環境づくりを推進します。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 IV 安全と安心を確保して、にこにこ笑顔で暮らすまち
 施策 13 防災対策の推進

評価指標

指標名	年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	基準指標	基準年(度)	2021	2022	2023	2024	2025
町民を対象とした防災訓練の実施回数	3回	(計画値)	5回	5回	5回	5回	5回
	令和元年度	(実績値)	5回	5回	6回		
災害時要援護者等の個別支援計画を策定済みの自治会数	15ヵ所	(計画値)	16ヵ所	17ヵ所	18ヵ所	19ヵ所	20ヵ所
	令和元年度	(実績値)	15ヵ所	15ヵ所	15ヵ所		
自主防災組織数	20組織	(計画値)	21組織	21組織	22組織	22組織	23組織
	令和元年度	(実績値)	20組織	20組織	20組織		

○総括

①当該年度の概況

○本別町と白糠町との包括連携協定に基づく対策
 十勝平野断層帯主部を震源とする大地震により本別町が大きな被害を受けたことを想定し、両町の支援・受援体制等連携確認のための訓練を実施。

○町民の防災意識の高揚
 土砂災害警戒区域を対象として大雨による発災を想定した避難訓練を実施したほか、自治会、学校からの求めに応じて防災講話、備蓄品倉庫見学、テント・ベッド組み立て体験、カードゲームなど行って防災意識の向上に資する事業を実施。

○災害対策本部の体制確認
 大雨時の想定シナリオに沿って災害対策本部の運営に関する訓練を実施。

②令和6年度以降の展望

令和5年度中に行った災害対策本部訓練から明らかになった課題に対応した初動マニュアルを作成。
 本別町と白糠町との包括連携協定に基づく災害対応については、白糠町における津波被害を想定し、白糠町からの協力（災害弱者受入）要請に係る情報伝達並びに福祉避難所及び医療機関への避難者受け入れ手順等訓練を行う。
 引き続き各種団体からの求めに応じて防災意識の向上に資する事業を実施するとともに、自主防災組織の設置について支援を行う。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 IV 安全と安心を確保して、にこにこ笑顔で暮らすまち
 施策 14 消防・救急体制の充実

評価指標

指標名	年度	基準指標 基準年(度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			2021	2022	2023	2024	2025
消防団員数		91人	(計画値)	91人	91人	91人	91人
	令和元年度		(実績値)	96人	93人	87人	
普通救命講習会参加者数		334人	(計画値)	300人	300人	300人	300人
	令和元年度		(実績値)	210人	193人	114人	
住宅用火災警報器の設置率		69.2%	(計画値)		71.0%		73.0%
	令和元年度		(実績値)	77.8%	79.2%	70.5%	

○総括

①当該年度の概況

○消防団員数

令和5年度中の退団者が5名に対し、入団者も5名であった。町広報紙やホームページへの掲載、町内事業所にポスターを配布するなど、団員数確保に向けた取り組みを行い、団員数の維持はできたが、更なる団員数確保に向けて、入団を促進していくことが重要と考える。

○普通救命講習参加者数

学校、事業所、各種団体に広報活動を行い、救命率向上を目的とした応急手当の重要性及び救急講習参加の啓発活動を行った。

○住宅用火災警報器の設置率

町広報誌に住宅用火災警報器設置についての記事を掲載、春秋の火災予防運動に合わせてひとり暮らしの高齢者宅防火訪問を実施、啓発活動を行った。

②令和6年度以降の展望

○消防団員数

令和5年度以前の取り組みに加え、各事業所へ働きかけを行い、入団促進を図るとともに、消防団活動に対する理解を向上させることが必要不可欠であり、そこに重点を置いた広報活動を実施する。また、管内11町村において、役場職員が消防団員に入団しており、本町においても役場職員に消防団員の一助を担ってもらえるよう検討を進める。

○普通救命講習参加者数

講習参加者を増やすために、応急手当の重要性を周知する活動を継続し、町民に応急手当の知識と技術を身に付けてもらうことで、救命率・社会復帰率の向上を目指す。

○住宅用火災警報器の設置率

町広報誌、同報無線を活用し定期的に町民に住宅用火災警報器の重要性について周知するとともに、市街地の一般住宅防火訪問にて啓発活動を行い設置率向上を目指す。設置住宅において、住宅用火災警報器の点検、管理不足による不作動等による設置率低下が懸念されるため、機器点検、交換を促し設置住宅の維持管理向上を目指す。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 IV 安全と安心を確保して、にこにこ笑顔で暮らすまち
 施策 15 防犯・交通安全対策の推進

評価指標

年度 指標名	基準指標	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	基準年(度)	2021	2022	2023	2024	2025
事故や犯罪が少なく安心して暮らすことができていると思う町民の割合 (総合計画アンケート調査)	89.6% (計画値)	/	/	90.0%	/	90.0%
	令和元年 (実績値)			未実施		
「子ども110番の家」件数	73件 (計画値)	80件	85件	90件	95件	100件
	令和元年度 (実績値)	81件	84件	81件		
交通事故死亡件数	2人 (計画値)	0人	0人	0人	0人	0人
	令和元年度 (実績値)	1人	1人	0人		

○総括

①当該年度の概況

○「子ども110番の家」件数。転出・死亡等で登録件数は減った。
 ○「交通死亡事故件数」は0件であったが、傷者数や物損事故件数は前年より多いので引き続き取り組みは必要。
 ○「事故や犯罪が少なく安心して暮らすことができていると思う町民の割合」について、令和5年度において、総合計画アンケート調査を実施していない。

②令和6年度以降の展望

○「子ども110番の家」については現在使用している旗の老朽化等が目立つので、今年度旗の希望と状況確認（今後の活動が可能かどうかの意思確認）の文書を送付する。また児童生徒が駆け込める110番の家に関しては民家より事業所の方が日中開いている確率が高いので事業所への依頼を積極的に進める。
 ○「交通死亡事故件数」死亡者はなかったが物損事故等の数は対前年よりも多いので今後とも特に高齢者の安全運転について啓発活動を行う必要がある。
 ○「事故や犯罪が少なく安心して暮らすことができていると思う町民の割合」について、令和6年度において、総合計画アンケート調査を実施予定。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 IV 安全と安心を確保して、にこにこ笑顔で暮らすまち
 施策 16 環境衛生・循環型社会の推進

評価指標

指標名	年度	基準指標 基準年(度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
			2021	2022	2023	2024	2025	
一年間に家庭から排出されるごみの重量（一世帯当たり）		0.51 t	(計画値)	0.50t	0.49 t	0.48 t	0.47 t	0.46 t
		令和元年度 (推定値)	(実績値)	0.45t	0.43t	(調査集計中)		
本町の事務事業におけるCO ² 排出量		4,504 t /CO ²	(計画値)	4,077t/CO ²	3,864t/CO ²	3,651t/CO ²	3,438t/CO ²	3,224t/CO ²
		令和元年度	(実績値)	4,378t/CO ²	4,826t/CO ²	4,533t/CO ²		
リサイクル率		45.6%	(計画値)	45.6%	45.6%	45.6%	45.6%	45.6%
		令和元年度 (推定値)	(実績値)	40.9%	33.8%	(調査集計中)		

○総括

①当該年度の概況

○一年間に家庭から排出されるごみの重量（一世帯当たり）
 対前年△0.02t。おひとり様世帯の増やペーパーレス化に伴い確実に減っている。

○本町の事務事業におけるCO²排出量
 令和4年度比、293 tの減となっているが、計画値達成には1,000 t以上削減しなければならない。排出量が多い要因としては、低炭素化が進んでいないことが考えられることから全庁的なCO²排出抑制意識の醸成が必要である。また、都市部と比較すると人口減少により廃線が進むため公共交通機関が少なく車を利用することから1人あたりの排出量が多いことも要因のひとつだと考えられる。

○リサイクル率
 資源集団回収の量が極端に減ったためリサイクル率の減少につながった。特にペーパーレス化に伴う紙類の減少が大きい。

②令和6年度以降の展望

○一年間に家庭から排出されるごみの重量（一世帯当たり）
 今後も順調に減るものと思われる。更にごみを増やさない持ち込まない取り組みを啓発等で進めていきたい。

○本町の事務事業におけるCO²排出量
 誰もが安心して暮らせる持続可能な社会を実現するためには、CO²の排出量を抑え、さらなる地球温暖化を防ぐ必要がある。専門人材を活用し、CO²の排出抑制意識醸成と排出抑制のための手法を検討しながら削減に向けて取り組んでいく。また、CO²削減につながるよう町有バスや循環バスの利用を呼びかけ排出量を減少できるよう努める。

○リサイクル率
 平成31年に池北三町での生ごみ処理を終えてから分別の方法が変わったことによりリサイクル率の大きな向上は望めない。資源集団回収がコロナ禍の時期に家庭の不用品を出し尽くした感があり極端な減少となっている。引き続きリサイクルの重要性を広報等で説明し協力をお願いするしかない。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 IV 安全と安心を確保して、にこにこ笑顔で暮らすまち
 施策 17 有効な土地利用の推進

評価指標

指標名	年度	基準指標 基準年(年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			2021	2022	2023	2024	2025
本町が自然環境に恵まれていると思う人の割合 (総合計画アンケート調査)	令和元年	90.9% (計画値)	/	/	91.0%	/	91.0%
	令和元年度	(実績値)			未実施		
都市公園整備数	令和元年度	21カ所 (計画値)	21カ所	21カ所	21カ所	21カ所	21カ所
	令和元年度	(実績値)	21カ所	21カ所	21カ所		

○総括

①当該年度の概況

公園施設長寿命化計画策定により、本別町内の都市公園21箇所の公園施設について、老朽化した施設や遊具等の修繕や定期点検を行い、お年寄りや体の不自由な方も含め、より多くの方に安心して利用できる公園整備を図り、令和2年度より計画的に老朽化した遊具施設の更新を実施している。令和5年度につきましては義経公園の遊具施設の更新を実施している。
 「本町が自然環境に恵まれていると思う人の割合」のアンケートについては、令和5年度に行っていない。

②令和6年度以降の展望

安全で安心して、くつろぐことができる公園施設の整備・維持管理について計画的に実施していく。令和6年度は本別公園と新たに栄町公園の遊具施設・公園施設の更新を実施する。
 「本町が自然環境に恵まれていると思う人の割合」について、令和6年度において、総合計画アンケート調査を実施予定。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 IV 安全と安心を確保して、にこにこ笑顔で暮らすまち
 施策 18 上下水道環境の充実

評価指標

指標名	年度	基準指標 基準年(度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
			2021	2022	2023	2024	2025	
上水道普及率		99.2%	(計画値)	99.3%	99.3%	99.4%	99.4%	99.4%
	令和元年度		(実績値)	99.5%	99.5%	99.5%		
簡易水道普及率		79.1%	(計画値)	79.2%	79.2%	79.4%	79.4%	79.4%
	令和元年度		(実績値)	80.3%	80.9%	81.9%		
公共下水道水洗化率		92.6%	(計画値)	92.9%	93.2%	93.5%	93.8%	94.1%
	令和元年度		(実績値)	93.7%	94.0%	94.3%		
汚水処理人口普及率		84.0%	(計画値)	84.3%	84.6%	84.9%	85.2%	85.5%
	令和元年度		(実績値)	85.4%	86.1%	84.9%		

○総括

①当該年度の概況

<p>【主な事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本別浄水場機器更新工事（電動仕切弁一式） ・勇足簡易水道給水連絡管整備工事（φ75 L=711.8m φ50 L=7.0m） ・美里別配水池機器整備工事（残留塩素計設備 一式） ・公共下水道終末処理場機器更新工事（曝気装置2基、機能増設一式） ・マンホール改修工事（鋳鉄蓋高さ調整ほか6箇所） ・合併処理浄化槽新設工事（浄化槽9基）

②令和6年度以降の展望

<p>簡易水道特別会計及び公共下水道特別会計は、令和6年度から地方公営企業法を適用し、企業会計へ移行している。今後は、財務諸表に基づく詳細な経営分析を行うとともに、各経営戦略を改正し、より健全な経営を目指していく。当面は、企業債残高を踏まえ、管路、管渠、施設等の修繕、長寿命化を主体とし、必要最小限の投資に留め、経営の安定化を図っていく。</p>

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 IV 安全と安心を確保して、にこにこ笑顔で暮らすまち
 施策 19 道路整備・交通網の充実

評価指標

指標名	年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	基準指標	基準年(度)	2021	2022	2023	2024	2025
舗装道路の割合（町道）	55.4%	（計画値）	55.7%	55.8%	55.9%	55.9%	56.0%
	令和元年度	（実績値）	55.7%	55.7%	56.0%		
橋梁長寿命化修繕計画の進捗率	24.2%	（計画値）	13.6%	18.2%	31.8%	40.9%	50.0%
	令和元年度	（実績値）	13.6%	18.2%	27.2%		
地域公共交通の乗車人数 太陽の丘循環バス（2路線）	13,804人	（計画値）	13,114人	12,458人	11,835人	11,243人	10,681人
	令和元年度	（実績値）	8,687人	7,908人	8,619人		
へき地患者輸送バス（5路線）	1,389人	（計画値）	1,320人	1,254人	1,191人	1,131人	1,074人
	令和元年度	（実績値）	814人	514人	482人		
本別・浦幌生活維持路線 （1路線）	8,398人	（計画値）	8,000人	6,000人	5,000人	4,500人	4,500人
	令和元年度	（実績値）	4,947人	4,492人	6,362人		

※橋梁長寿命化計画は令和3年度に見直し改訂を行っており、令和3年度以降の計画値は見直し後の長寿命化計画の値。

○総括

①当該年度の概況

<p>○舗装道路の割合（町道） 令和5年度の町道延長は459,814m、舗装延長は257,377m、率56.0%、舗装施工延長は323mを実施、農道から町道に移管された延長は2,067mしている。</p> <p>○橋梁長寿命化計画の進捗率 令和3年度に見直し策定した橋梁長寿命化計画では22橋の補修・架換工事を計画しており、令和5年度末現在の事業進捗状況として6橋が補修済で進捗率27.2%となっている。</p> <p>○太陽の丘循環バス コロナの5類移行により、前年度比8%の利用者数増。しかし高齢化と国保病院利用患者数の減少、ハイヤー券交付事業との競合により、計画値を大きく下回っている。</p> <p>○へき地患者輸送バス 曜日別に5路線を運行し、月平均40人の利用がある。令和4年度の月平均42人から微減。循環バス同様、ハイヤー券交付事業開始が利用者数を押し下げていると考えられる。</p> <p>○本別・浦幌生活維持路線 利用者数 6,362人利用（内訳：高校生 5,581人、その他 781人）～利用人数によりバスを変更 運行回数 1,170回運行（内訳：マイクロバス 539運行、特定大型 172運行、特定小型 459運行） 運行経費全体 15,668,701円 浦幌町負担金 本別町負担分 6,669,833円</p>
--

②令和6年度以降の展望

○舗装道路の割合（町道）

令和6年度以降も安全で安心な道路サービスの提供と計画的な道路舗装整備を継続する。

○橋梁長寿命化計画の進捗率

令和6年度以降も計画に基づき効率的な維持管理を進めていく。

○太陽の丘循環バス

令和6年7月に、利用状況に合わせて運行路線およびダイヤ改正を行い、バスを2台から1台とする。

○へき地患者輸送バス

令和6年10月に運行見直し（デマンド化、ルート変更）を予定している。

○本別・浦幌生活維持路線

この間、高校生に限らず、浦幌、本別間を運行してきたが、令和6年4月から本別高校専用のスクールバスとして運行することとなった。また、浦幌町からの負担金は、令和5年度入学生徒が卒業するまでとして、負担額を定めた。

令和6年度 4,000千円、令和7年度 2,000千円 なお、浦幌線に係る事務局は、企画財政課から教育委員会管理課へ移行する。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 IV 安全と安心を確保して、にこにこ笑顔で暮らすまち
 施策 20 住宅環境の充実

評価指標

指標名	年度	基準指標 基準年(度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			2021	2022	2023	2024	2025
老朽空家住宅除却支援事業実施件数	5件	(計画値)	3件	3件	3件	3件	3件
	令和元年度	(実績値)	7件	3件	3件		
公営住宅管理戸数	418戸	(計画値)	410戸	410戸	402戸	398戸	394戸
	令和2年度	(実績値)	418戸	410戸	410戸		

○総括

①当該年度の概況

○老朽空家住宅除却支援事業実施件数

当該事業については、本別町空家等対策計画に基づき管理不良な老朽空家住宅の除却を支援するための補助であり、令和3年度は7件、令和4年度は3件、令和5年度は3件の除却助成を実施している。

○公営住宅管理戸数

公営住宅については、向陽町団地屋根・外壁改善工事（2棟10戸）、共栄団地屋根・外壁改善工事（4棟12戸）の改善工事を行っている。

②令和6年度以降の展望

○老朽空家住宅除却支援事業実施件数

空家実態調査等により倒壊や崩壊の可能性が高い住宅が17件あり、事業の周知を進め管理不良な状態にある老朽空家住宅の除却の推進を図ることが今後も必要と考える。

○公営住宅管理戸数

公営住宅については、共栄団地など各団地の改善工事や向陽町団地の用途廃止に伴う公営住宅の解体工事を公営住宅等長寿命化計画に基づき実施していく。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 V みんなの笑顔を、未来につなぐまち
 施策 21 自治体経営の推進

評価指標

指標名	年度	基準指標 基準年(度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
			2021	2022	2023	2024	2025	
町税収納率（住民税、固定資産税、軽自動車税、法人税等）		96.8%	(計画値)	97.0%	97.2%	97.2%	97.4%	97.6%
	令和元年度		(実績値)	97.7%	97.9%	98.0%		
経常収支比率		90.5%	(計画値)	90%未満	90%未満	90%未満	90%未満	90%未満
	令和元年度		(実績値)	80.2%	83.6%	84.80%		

○総括

①当該年度の概況

○町税収納率

令和5年度の町税収納率は現年度分99.6%、滞納繰越分20.2%、全体で98.0%となっている。国税還付金・預貯金・生命保険・給与の差押、文書催告や訪問件数の増により、滞納処分件数を増やして収納率の向上を図っている。

○経常収支比率

新型コロナウイルス感染症の5類への移行により、新型コロナウイルス感染症関連補助金等は減少傾向にあり、それに伴い経常経費の増が見られる。今年度は、前年度比1.2%増となった。

②令和6年度以降の展望

○町税収納率

社会情勢や景気の動向が収納率に影響を及ぼす場合もあり得るが、現状の取り組みを継続的に行うとともに、納税者に対して納税意識の醸成を図っていくことによって、収納率向上を図っていく。

○経常収支比率

コロナウイルス感染症関連の交付金等は一時的なものであることから、経常収支比率はコロナ禍以前の状況である85~6%程度まで戻ることが想定される。引き続き経常経費の削減に努めるとともに、事業実施の際は活用可能な財源について十分に調査、研究を行っていく必要がある。

○第7次総合計画 実施状況調書（令和5年度実績）

基本目標 V みんなの笑顔を、未来につなぐまち

施策 22 開かれた町政の推進

評価指標

指標名	年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	基準指標	基準年(度)	2021	2022	2023	2024	2025
ホームページのサイト訪問者 件数	118,987件	(計画値)	121,000件	122,000件	123,000件	124,000件	125,000件
	令和元年度	(実績値)	461,773件	353,204件	222,409件		
条例委員等における女性委員 の比率	24.4%	(計画値)	25.0%	25.5%	26.0%	26.5%	27.0%
	令和2年度	(実績値)	21.1%	20.8%	20.5%		

○総括

①当該年度の概況

○ホームページサイト訪問者件数

R3年度、R4年度に比べ件数が少なくなっているものの、未だに計画値を大きく上回っている。大きく上回っている理由は、マイナンバーカードに関するページがR5年度で41.2%、R4年度で49.8%を占めている。

○条例委員等における女性委員の比率

委員会等の数で見ると女性委員のいる委員会等が全体の約3分の2となっているが、それぞれの委員会等では女性委員割合が約1割から5割までばらつきがあり、全体では女性委員は約2割となっている。また、各種団体の長が男性の割合が多いことが根本であり、様々なところで男女の区別が無くなる必要がある。

②令和6年度以降の展望

○ホームページサイト訪問者件数

令和6年8月から本別町公式LINEの運用を予定。LINEアカウントの利活用によりホームページへのアクセスが増加する見込み。町民にタイムリーな情報を届けるとともに、町外への魅力発信に努める。

○条例委員等における女性委員の比率

審議会等の内容に応じて知見を有する女性の適任者がいれば委員選定の際に積極的に依頼していく。